

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：グループホームはなんばの里

施設種類：グループホーム・小規模多機能型居宅介護施設（該当に○）

日時：令和7年11月26日 14時～15時15分

会場：デイサービスセンターやまもも

出席者
（人数）

利用者代表	0人	有識者	0人
利用者家族	2人	高齢者あんしん支援センター職員	1人
地域住民の代表	2人	出雲市職員	0人
その他（潮風苑施設長、はなんばの里施設長）			2人

（議題）

1. 利用者状況報告
2. 活動状況報告（スライドショー上映を含む）
3. 今後の行事予定について
4. 身体拘束等適正化について

（報告・説明事項）※グループホームはなんばの里に関するもの

利用者の状況報告	・現入所者数、申込者数、入退所状況、入所者状況、（性別、介護度、年齢） ※前回運営推進会議以降入所1名・退所2名
活動状況報告	・9月～11月に実施した主な行事・活動の報告 〔敬老会、合同防災訓練、県立大学老年看護実習受入、消防避難訓練、運動会、窓ふきボランティア及び勉強会〕 ・はなんばの里の行事等のスライドショー
今後の行事予定について	・外部評価（12月2日）、クリスマス忘年会（12月17日）
身体拘束等適正化委員会の設置について	・身体拘束等の状況報告（身体拘束等廃止委員会（詰所会議）からの報告）

●議題1～3（利用者状況・活動状況・今後の行事予定）

（会議の内容…評価、要望、意見、助言等）

○ あんしん支援センター職員より

平均介護度が3.5とグループホームにしてはかなり高いですね。スライドショーを見せていただきましたが、酸素をされている方やミキサー食を食べておられる方が多くいらっしゃいました。

介護の手間もかなりかかるのではないですか。

⇒ **施設より**

要介護度が他のグループホームに比べかなり高いと思います。以前、他のグループホームに伺い、ご利用者の要介護度の平均や職員体制などお聞きしましたが、要介護度は高くても要介護2の後半であり、ご利用者の多くは独歩で車椅子を使用されている方は少なかったです。職員体制も概ね同じでしたが、要介護度の高さの差で職員の動きも全く違うと感じました。本来なら、介護度が高くなれば、法人内に特養もありますのでそちらの方に転所することもできますが、看取りまではなんばの里でと希望される方もたくさんいらっしゃいます。食事介助や排泄介助、身体状況から居室内での生活を余儀なくされている方も2名いらっしゃいます。介護の手間でいうとかなり多くの時間を要していると思います。

○ **地域住民の代表より**

10～11月に3名の退所がありましたが、現在の空き状況はどうですか。

⇒ **施設より**

お一方は入所されています。あと2床もほぼ決まっていたのですが、直前になってキャンセルされたり、入院中の方についてはご本人の回復の状態が思わしくないとのことで、現在は2床の空床となっています。

○ **地域住民の代表より**

合同防災訓練で車椅子の方も避難されましたが、車椅子ごと乗ることができる車両は何台ありますか。

⇒ **施設より**

車両自体は3台ありますが、そのうち車椅子ごと乗れる車両は1台です。しかし、車椅子は2台しか乗せることができません。今回は訓練でしたので、体調不良の方や車に乗ることが難しい方については怪我などのリスクを考慮し参加していただきませんでした。8名のご利用者と職員でも3台の公用車だけでは足りず、小田にある施設から前日にお借りして、はなんばだけでも4台使用しました。実際に災害が発生した際には、職員の車も使用し、車椅子の方でも二人で抱えて車両に乗れるだけ乗っていただかないといけません。特に津波が発生した時には時間も限られますので、そういった形を取らざるを得ないと思っています。

○ **家族の代表より**

窓ふきの後、昨年も参加させていただきましたが、認知症についての勉強会を開いていただき、何度聞いても勉強になりました。今後もこのような機会があると嬉しく思います。

⇒ **施設より**

ありがとうございます。スライドショーで見ていただいた通り、ご利用者と地域のクリーン活動に参加しました。窓ふきに来ていただくだけでなく、私たちも地域に対しできることはさせて頂きたいと思っています。地域密着型サービスに分類される施設ですので、勉強会をはじめ、こういった関りを多く持ちながら地域に根差した施設でありたいと思っています。

● **議題4（身体拘束等適正化について）**

○ **施設より身体拘束廃止委員会（詰所会議）の報告**

- ・身体拘束廃止委員会（詰所会議）から別紙のとおり身体的拘束等の状況報告を行った。

■身体拘束の状況：緊急やむを得ない場合を含め、全く行っていない。

■教育・研修等の開催：8/9（水）に詰所会議にて身体拘束等防止及び高齢者虐待の研修を行って以降はなし

■日常的ケアに対する取り組みと見直し：毎月、詰所会議にて高齢者虐待、不適切なケアについて話し合いの場を持ち、翌月の月目標として挙げ取り組んでいる。また、日常的ケアに対する見直しを基に日々のケアを全職員で振り返り、適切なケアへと繋げていくようにしている。

【11月の詰所会議時に話し合った内容について】

今回は、『利用者本位のケアができているか』について、話し合いました。排泄誘導した際にトイレットペーパーがはずされていたり、「○○したい」と話されても職員の都合で本人の希望を無視していないかという点について話しました。

トイレットペーパーについては、以前も同様のことがあり話し合う機会を設けました。何故、トイレットペーパーをホルダーからはずすのか聞いたところ、「少量のペーパーで拭かれるため、手に便等が付着し衛生的に良くないと感じた。職員が温タオルでお下を拭く方が良いと思った。」という回答がありました。これについて、私たちは『介助が必要になってもご自分でできることは継続していただけるように、できないところを見極め、必要な介助のみ行う』ことを目的としケアにあたっていますが、ご本人からできる機能を奪っていることになり、本来行うべきケアではないのではないかと結論付けました。お下を拭くことが可能であれば、その機能は活かし、排泄後、石鹸を使用し手指を綺麗に洗っていただくように声を掛けたり、時には手洗いを介助したりすることが、機能を奪わず自立を促すことに繋がるという話になりました。また、私たちも外出先でトイレに行くときには、トイレットペーパーがないトイレには入らないはず。当たり前のことが当たり前でない環境を作っていないか考えました。

トイレに何度も行きたいと感じるご利用者について、「さっき行ったばかり」「今、掃除をしているから行かない」などと理由をつけ、ご本人の希望を無視している現状がありました。ご利用者の中には、利尿剤を内服されている方もおられます。その作用で繰り返しトイレに行きたくなるのは当然のことです。その時々状況を理解した対応が必要とされますが、理解しないままご本人が希望することをしないのは、虐待や怠惰のほか何でもありません。「一人で多くの利用者をみないといけない時に、いっぺんにトイレを希望されると希望されても行けないことがある」との話もありましたが、今行けない理由をしっかりと話し、理解を得る、他の職員を呼び対応してもらうなど、誠意ある対応をしていかなければならないと思います。

この話し合いを機に利用者本位のケアをめざしたいと思います。ご利用者が自立した生活を送ることができ、気持ちよく過ごせる場所にしていきたいと思います。

○ 地域住民の代表より

トイレに行きたい方が重複した場合には、ちゃんと理由を説明して差し上げることが大切だと思います。何の説明もなしにただ「行けません。」というだけでは利用者の方も気持ちよく納得できないと思います。見下したような対応は良くないと思います。

○ 家族の代表より

今回のような事例は、隠そうと思えば隠せたと思います。しかしながら、こうやって実際に起きていることを正直に報告してくださり、施設を良くしていきたいという気持ちの表れだと思って聞きました。面会に来た時にはいつも職員の皆さんは優しく声を掛けてくださり、他の利用者さんに対しても同じように優しい対応をされています。自分の家族にも介護を必要とする者がおり、「今言ったばかりじゃない。」と言ってしまうこともあります。良くないことを良くしようという長の考え方がしっかりしておられるので、安心してみていただけていると思っています。

○ 家族の代表より

この間から入所させていただいています。他の家族と施設見学をさせてもらいましたが、同行した家族が一番先に言ったことが「皆さん穏やかな雰囲気です。」という言葉でした。ここなら安心して母親も過ごせると思いました。今回のような事例を会議で取り上げられ、職員の皆さんで共通認識を図り、そういったことがないように取り組まれているということは、逆に利用者本人も家族も安心して過ごすことができると思えました。職員さんが忙しくてできないと感じられることでも家族としては安心してみていただいています。介護施設だけでなく、他の業界でも皆さんが同じ方向を向いて仕事することは簡単なことではないと思っています。職員さんが同じ方向に向かって取り組まれるといいですね。

⇒ 施設より

たくさんご意見を聞かせていただき、改めてしっかりと取り組んでいきたいと感じました。あまり良いことではないので、この事例を取り上げ、皆さんに報告すべきか迷いましたが、現状を知っていただき改善に向けた取り組みをしていることもお伝えしたかったです。すべての職員がそういったケアを行っているのではなく、基本的には優しい対応ができる職員が殆どです。人員不足、人間関係などの職場環境や職員自身のプライベート環境、抱えている問題もそれぞれで、それらが作用し、「いけない」と解っていても「言ってしまう・やってしまう」のだと思います。ご利用者の気持ちを真摯に受け止め、誠意ある対応をしていかなければならないと思います。認知症高齢者はご自分でできることを継続して行うことで、ある程度の期間、その行為を忘れず行うことができます。できることが自信にもつながります。本来行うべきケアについて、しっかりと考え対応できる人材を増やし、ご利用者やご家族が安心して過ごしていただけるよう引き続き取り組んでいきます。

(その他)

○ 次回開催予定日 グループホームはなんばの里 1月27日（火）